

12 森林ボランティアリーダー研修

【日時・場所】 9月8日(土) 10:00~15:00 王滝村九蔵の森、王滝村公民館
9日(日) 9:00~11:15 王滝村瀬戸川国有林

【参加者】 森林ボランティアリーダー6名、
愛知中部水道企業団職員9名(うちサブリーダー受講者6名、準備作業従事者3名)、
木曽地域振興局林務課1名、王滝村役場1名、森林整備推進実行委員会7名、
ボランティアガイド1名、木曽広域連合4名 (合計29名)

【内 容】 以下のとおり

平成18~19年度に実施された森林ボランティアリーダー養成講座の受講者を対象に作業技術の維持を目的として毎年実施しているリーダー研修会と、リーダーの負担軽減や世代交代を図るため愛知中部水道企業団職員を対象としたサブリーダー養成講座を実施しました。

今年は9月29日(土)に「水源の森応援隊」を王滝村九蔵の森で5年ぶりに開催するため、その準備作業を兼ねて行いました。

8日(土)は、午前10時に王滝村公民館に集まり、開会式を行いました。前日から雨が降り続いた影響で現地は大雨警報が発令されましたが、開始時点では雨足が弱まり時折晴れ間ものぞくようになったため、予定通り研修を行うこととしました。

ボランティアリーダーは、王滝村経済産業課長の田中さんの指導により、「水源の森応援隊」の作業予定場所の現地確認と、作業時の進入経路の確保を行いました。5年前に除伐を行い、植えられたヒノキは大きく成長していたものの、草やつるが再び伸びてきていました。また雨の直後でもあったことから、沢筋以外にも水が流れている所もあり、足元がぬかるみ歩きにくい状態でしたが、作業経路を確保することができました。

リーダーの作業中に準備作業従事者(企業団職員)と森林整備推進実行委員会により、九蔵の旧営林署土場跡地の草刈りを行いました。こちらも普段は利用することが無く、草や灌木が伸び放題となっていました。当日は式典会場並びに駐車場となるため、ある程度広い範囲の整備が必要のところ、企業団より自走式草刈機を持ち込んでいただいたおかげで、予定していた範囲を整備することができました。

愛知中部水道企業団の若手職員を対象としたサブリーダー研修は、午前中王滝村公民館で講義を行いました。木曽地域振興局林務課の大屋さんより、森林整備の作業工程や準備、作業時の注意事項などをわかりやすくお話しいただいたあと、蜂の毟作りを体験していただきました。午後からはボランティアリーダーと合流し、リーダーから教わる形で、「水源の森応援隊」の作業現場の経路作りに参加しました。各所で行われた作業は、予定より1時間早い午後3時ごろに終了することができました。

9日(日)は、地元ボランティアガイドの西村さんの案内により、瀬戸川国有林の見学を行いました。午前9時に国有林入口に集合し、約3kmの林道を歩いて見学しました。

古くから伊勢神宮社殿等の用材を供給するための「備林」として守られてきた森林で、明治時代に皇室所有の「御料林」を経て国有林となっても、ヒノキやサワラを中心に樹齢2~300年の大木が多く残されており、皇族の方々も度々見学に訪れているそうです。

平成 30 年度地域間交流事業

西村さんによると、古くは現在の植樹密度を超える「1ha 当たり 1 万本」という密集状態の中で木が育ち、枝が伸びるような隙間もなかったことから、節のないまっすぐな大木が成長したとのことです。現在は天然木と人工植林が入り混じっていますが、高さ 40m を超える大木を道沿いにも多く見ることができます。谷間を流れる瀬戸川も、大雨の直後ということもあり水量が多く、迫力も満点でした。

王滝村では、瀬戸川の奥に設定されている保護林へ続く道や橋を整備し、新たな観光ルートとして活用していくことを模索しているとのこと。

約 2 時間で見学を終了し国有林入口に引き返した後、サブリーダー養成講座受講者 6 名に修了証書を授与し、解散となりました。

今回は、従来から内容を若干変更して作業日程を 1 日とし、サブリーダーの講義も安全確保に重点を絞って短時間の構成で行いました。また、森林整備推進実行委員にもご協力いただき、会場準備も合わせて行うことで、「水源の森応援隊」に向けて効率よく準備ができたと思います。

平成 30 年度地域間交流事業

☆ 当日の様子

1 日目 (9月8日)



開会式 (王滝村公民館前)



作業路の確保



旧営林署土場の草刈



サブリーダー養成講座 (講義)

2 日目 (9月9日)



瀬戸川見学 1



瀬戸川見学 2



閉会式 (修了証書授与)